

編集後記：今年の1月にアメリカ・フェニックスで開催された第95回アメリカ気象学会年次大会に参加してきました。この大会にはこれで3回目の参加となりますが、毎回その規模の大きさと内容の幅広さに感心します。会期は5日間で、テーマ毎に分かれて数十のセッションが並行に開催されます。小さなセッションでは1日で終わるものもありますが、大きなセッションでは4日間にわたって一つのテーマで発表・議論が続き、とても聞き応えがあります。日本気象学会の専門分科会や各種研究会を10倍くらいにしたような規模、といえは伝わるでしょうか？ この大会では口頭発表は1件15分で発表件数も多いのですが、講演時間が厳守されているためか、一つのセッション内でも聴講者の入れ替わりが結構あり、いろんな分野の講演が聞きやすくなっているように感じられました。加え

て、口頭発表の講演は録画・録音され、後日公開されるので、私のように英語の聞き取りに難がある参加者にとっても大変助かります。また、お昼休みやコーヒープレイクも長めにとられており、参加する側としては気分的に余裕が持てました。日本の気象学会もこういう風になればいいのになあと思うのですが、やはりこれだけいろいろ用意するためか参加費が5～7万円と、日本気象学会の定期大会に比べるとかなり割高です。とはいえ、参考になるところは日本の気象学会でも取り込んでいけたらと思います。

皆さまからの他の学会への参加報告や気象学会へのご意見も「天気」への投稿をお待ちしています。(そういう意味では、この話題もここに書くのではなく、「参加報告」として「天気」に投稿すべきだったかもしれません。)

(林 修吾)